




研究者名※	平田 倫生 HIRATA Michio	学位※	博士(医学)
所属※	家政学部 児童学科	職名※	教授
連絡先	hiratam@fc.jwu.ac.jp		
URL	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/human_sciences_and_design/child_studies/index.html		
researchmap※	https://researchmap.jp/akacho		
研究分野※	複合領域、医歯薬学		
研究キーワード※	健康・成長、発達・子育て、小児消化器病学		
共同研究・競争的資金等の研究課題			
社会貢献・産学官連携活動等			
受賞歴			

研究領域	小児科学	(SDGs)	
研究テーマ※	新生児・小児の消化管運動の研究		
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 新生児、小児での消化管運動は、その未熟さより成人とは少し違った様相を呈する。各部消化管括約筋の静止圧が低いことがその大まかな特徴としてあるが、食道括約筋もその例外ではない。そのため、もともと新生児では胃食道逆流現象はよく認められる。遷延する新生児呼吸障害に関して、胃食道逆流現象、つまり気管食道分岐部までの高位逆流の直接的な関与を、多チャンネルインピーダンスpHモニタリングによって証明しつつ研究を進めている。</p> <p>【応用例、研究の展望】 新生児呼吸障害と胃食道逆流の関連が明らかになれば、新生児早期の呼吸管理の治療戦略が変わる可能性がある。例えば、人工呼吸管理中の新生児への積極的な胃酸抑制やより適切な人工呼吸の方法とそのモード管理の選択である。現在、母体年齢の高齢化によって、早産児の割合は増加しており、呼吸障害児の予防はその後の医療的ケア児の抑制につながり、ひいては増大する医療費削減につながる。</p> <p>【研究方法の特色】 本邦では、消化管運動そのものを研究テーマとする研究者は少なく、多チャンネルインピーダンスpHモニタリングのような消化管検査はレアなものである。しかし、消化管は第二の脳と呼ばれるように、独立した神経系を持つ深遠な臓器であり、その研究により様々な日常の問題の解決につなげていきたい。</p>		
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 		
共同研究・外部機関との連携への期待	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 		